

乙 第 号

岸本 裕子 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	乙 第 号	氏 名	岸本 裕子
論文審査担当者	委員長	教 授	緒方 奈保子
	委 員	教 授	木村 弘
	委 員	講 師	佐伯 圭吾
	(指導教員)		

主論文

Bodily pain, social support, depression symptoms and stroke history are independently associated with sleep disturbance among the elderly:
a cross-sectional analysis of the Fujiwara-kyo study.

体の痛み、社会的支援、抑うつ状態、脳血管疾患は独立して高齢者の睡眠障害と
関連する -藤原京スタディ横断解析-

Kishimoto Yuko, Okamoto Nozomi, Saeki Keigo, Tomioka Kimiko,
Obayashi Kenji, Komatsu Masayo, Kurumatani Norio.
Environmental Health and preventive medicine.
2016 Apr 12. Published on line.

論文審査の要旨

本研究は、地域健康医学教室が行った藤原京コホートスタディのベースライン時に実施した問診と自記式調査票を用いて調査したデータから、60歳以上の高齢者3732名の主観的睡眠障害の有病割合と、睡眠障害との横断的関連要因を探索的に分析したものである。

男性の31%、女性の42%にピッツバーグ睡眠調査票に基づく睡眠障害を認め、有病割合は男性より女性で高く、80歳以上の高齢者では65-69歳より高いことが分かった。また、現在の健康状態、慢性の病歴、生活習慣等の交絡因子を調整後も、高齢者の睡眠障害が身体の痛みや配偶者や家族からの支援状況と独立して有意に関連することを明らかにした。

本研究から高齢者の睡眠障害対策として、ごく軽度の段階からの疼痛緩和や、配偶者や家族の支援が低下した高齢者への支援が重要であることが示唆された。一方研究の限界点として、睡眠状態が主観的評価にとどまっており、客観的な睡眠評価を欠く点や、睡眠薬使用がピッツバーグ睡眠調査票の構成要素となっているため、睡眠薬使用の有無についてのサブ解析の必要性などがあげられる。

大規模対象者の解析から導かれた結論は、わが国の高齢化社会において、医学的側面のみならず、介護面からも大変意義深いものである。研究発表時の質疑応答にも的確に答えており、博士の学位に値する研究と評価し得た。

参 考 論 文

1. 特別養護老人ホーム入所高齢者の生体リズムの特徴とその関連要因

岸本 裕子、岡本 希、車谷 典男

奈良医学雑誌 61 : 45-52, 2010

2. 脂質関連要素の適正摂取を目標とした地域住民に対する個別栄養教育の介入効果

天野 信子、尾方 希、森田 徳子、佐伯 圭吾、野谷 雅子、

小向井 英記、東 (岸本) 裕子、松田 亮三、車谷 典男

日本公衆衛生学会雑誌 49:332-343, 2002

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに高齢者の予防医学の
進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 28 年 9 月 13 日

学位審査委員長

視覚統合医学

教 授 緒方奈保子

学位審査委員

呼吸器病態制御医学

教 授 木村 弘

学位審査委員（指導教員）

地域健康医学

講 師 佐伯 圭吾